元和二年
六月吉日

和漢朗詠集上

利
2838

2858

春の長閑

和漢朗詠集上

春

立春　早春　春興　春夜　子日付若菜

三月三日付桃　暮春　三月盡　閏三月

鶯　霞　雨　梅付紅梅　柳

花付落花　躑躅　歎冬　藤

夏

更衣　首夏　夏夜　端午　納涼

晩夏　花橘　蓮　郭公　螢

蟬　扇

秋

立秋　早秋　七夕　秋興　秋晩

秋夜　八月十五夜　付月　九月九日　付菊

九月晝　女郎花　萩　蘭　槿

前栽　紅葉　付落葉　鴈　付帰鴈　虫　鹿

露　擣衣

冬

初冬　冬夜　歳暮　爐火　霜

雪 氷付春 氷 霰 佛名

春

立春

逐吹潛開不待芳菲之候迎春花

公業伝

霧霧時希雨露之恩

池凍東風度辭窓梅如面雪封寒

葛洲

在原元方

うちとけぬいけのこおりのうすらぬるはるかぜにこそ

柳陰氣力條々動池有波文氷盡開
今日不知誰討會春風春水一時來
夜向殘更寒漏盡春生香火曉燈灰
[illegible]

早春

氷消田地茵雖綠春入枝條柳眼低
先達和風載消息頻教歸雁說來由
東岸西岸之柳遲速不同南枝北枝之
梅開落已異
紫塵蝦蟆人拳手碧玉寒茵錐脫衣
氣霧風梳新柳鬢氷消浪洗鴨背波

庭燎氣色晴初緑林葵容輝宿雨紅

春興

花下長閑因暮景京樓前勸醉見春風

野草芳菲紅錦地遊絲繚亂碧羅天

歌酒家家花裏裏宮宿宿上陽春

山桃傷野桃日曝紅錦之幡門柳漫

羅柳風宛麹塵之線

着野展數紅錦繡苔天遊織碧羅綾

林中ノ花錦ハ時ニ開落天外遊線或有之
蓬萊夜月家ニ思詩酒春風愛ニ情
[illegible]
[illegible]
[illegible]

春夜

宵燭共惜深夜月踏花同惜好年春
[illegible]
[illegible]

子日 付若菜

侍松樹ニ摩腰習風霜之延年也祝菜
卷而啜口ニ氣味之克調
繞松根ニ摩腰千年之壽海年ニ折梅
花而挿頭二月之雪落衣

[illegible]

若菜

野中芝菜世事推之恵仏燈下和奉

俗人属之義指

[illegible]

三月三日 付桃

春来適見桃花水雜仙源何需訪

春之暮月ニ三朝天酔于花桃李ニ

感也我君一日之澤方機之餘曲水雅遊
遺塵追後書巴字而知地勢思魏文
以敬風流蓋志之所之謹敬序云尒
煙霞遠迎應園戸桃李淺深倍勸盃
水成巴字初三日源起因年後幾霜
緑石遲来心霞流過過平光度

紀州にて

桃

夜雨除温冒没之眼衫嬌曉風緩吹
果言之唇也之漢
みちとせふなるうれしとも
ふかくけるうつ

辛丑度文の部

暮春

拂水柳花千方點陽樓鶯舌安三聲

元稹

但翅汝弱潮落曉乱流野馬芳草春
人無更如時須惜年不留春酒莫空
劉伯若知今日好應言此愛不言何
いとゝふかすゝつゝもいかに月宣も境
をかこゝろくるけるもとくかゝ

三月盡

留春に不逐春帰人寂寞猶風雨

風起花蕭蕭

行院君閑居永日花亭我醉送殘春
悄悄春帰留不住紫藤花下漸黄昏
送春不用動舟車但引殘觴乞落花
若使詔光知我意今霞椒猶在詩家
留春不用閉城門花落風吹入雲

[illegible]

閏三月

今年閏在春三月見看金陵一片花　陸侍御

歸給孤園更逗留於孤雲之路辭林　[illegible]

蕭條三徑翻一片之花　送淮南李中丞行部　陸侍郎

花悔迎恨無無悔鳥沼入谷定延期　嵯峨　伊勢

[illegible]

鶯

鶯啼鳴忠臣待且常珠出遺賢在谷　風乃玉璧貴頂

誰家碧樹鶯歸而羅幕於高幾多花　[illegible]

堂裏覓而殊留未奏　曉雲賦討秋　元稹

鳴霧山雲帝尚收窮　汀蘆葉蘆分

葉頭之酒雲呼客水面芙蓉風泛池

雲間聲誘引来花下色拘留住水邊

感同歎於相求離鴻之應春鶯

會期氣而終渙詠必奥曜之伴曉啼

燕姫之袖皆収精藻乱於鶯拘同帝

来春頻動顧同南於鶯巧

彩鶯如今春宿雪信巣多後屬春雲　白居易三首

西樓月落花間出中殿燒殘竹裏音　菅出谷官

あるむとしをみるうつたちはなのこゑ　廉京節

ちるものそうとうふうれすれ

けうとくもまぬえとあるか

うらもとのこゝろをみるとそゆきえめ
やまさきのいろをきるまつ

霞

霞覆晴後殿裡史草色晴来嬾似煙
（早春　白居易春晴寄者）

鑽波草只三分許踏樹霞纔半段餘
（人九）

きりふかしをうしはくるくるまこ
かすみをしはしはやらふをとこ
けるをこゝろかやいつこゝろの
ゆくさはしりけり
（弁人）

あををさきこゝろのこゝろ
てけるをとこはそこゝろいふ
（重成）

雨

或高花下潛增雲子之悲時葬鬢河
（春雨数絲　紀和言）

暗動蕃帥之思

長樂鐘聲花外盡龍池柳色雨中深
（李端）

春尋同為花父母洗来寧辨藥君心
（山家雨紀）

花影開日初陽洞鳥声帰時夜幕陰
斜廊暖風先扇変晴麥乃未晴旋

春色面中決春一

春至帝出白
春色面中決春一

ちらちらとおゆきはあらさめはるしくハ
わかとえんとかのうゆきまよくさまく
おもやさきえんとうかるけるさやい
いとしとしてわすれそまれそもそ

梅

白梅露梅浮洞水黄梅新柳出城墻

梅花第雪花琴上柳文和烟八池中

梅結草也村人市製
梅結草也村人市製

潮音重瞩雪新封裏微寒春風未扇先

見紅春雲雲漢乎但撫大庾万株春

七雑言春色隠東訪暖南枝花始開

青絲絲出陶門柳白玉裝成庾嶺梅

安信居送
安信居送

いとうゑ祢うゑ仮江和ゑ
らうさのむ先いらかさたくら

わかせこふこそもむとおりし梅の花
そまさくこんこうよりはいさのみさい
かをとゝくそもせやうらんむめく
なあやなしなまこうちかこうそ

紅梅

梅含鶯香兼紅葉紅葉紅葉殘花帶碧文
淺紅鮮嫩仙童之雪燒色濃香芬郁
妓猶之煙護薰

元稹

綾擬梅已開序 董逌

有色易衰殘雪底玄恒詩 直苦寒梅中書山
仙曰風生忘皺雪暖煙火暖未揚焰

紀秋名

支幻

柳

林端何處吟第一種柳誰家暎麹塵

早春 白

漸欲拂他辭客袂多麻乃上樓人
登安廟花紅似杉眼君村柳要方眉
成知老去風情如見逝年一句詩
太陳嶺之梅得落誰同杉粧逢麻山
之杏未開豈趁紅艶
雲敬筆紅袖枝葉日春嚬黄珠垂柳風
倍杏看柳色序紀細云
田達言
物氣緊熟の時は中玄王
穢宅迎晴庭序晴陰池逆日水烟深
源仙月浪更枝棲岸風来渡葉頭
丈ヘ
物氣緊熟の時は中玄王
あしやこのつくしろもとけろもとそ
みそもくさくけかいはうろもよもち
はなやれ乃まものてうらいはうい
うろれうろれうろれうろまうろもこまろ
花付落も
菊朝上菀煙炊池九面之麻樹叫宣

山鄰岸莹千叢之後
池色溶〻益深水花光焰〻火燒春
遥見人家花便入不論老幾与親疎
鶯日莹風弓倦子顆万顆之色深枝
深流表裏一人每入之紅井
誰謂水無心濃艷波髮多誰謂
花不語激湍激弓訳動脣
欲謂之水則漢女移之流清莹欲
謂之花乞蜀人濯文之錦鑾煥
織自何線謂當雨裁無之横任春風
花光如鏡流桃織吉春風来多紅
始識春風撫上弓唯識色織芸芸

眼會蜀郡裁殘夏　懷秦城調魚筆
世事かそへてさそらのみちせい
そらのこころいのちをとこそふくらんなる
ちりとりむしのらもちむしうくなる
みくのうやそふかうん心さうこ
てやしそうてうたとうき筆

落花

落花不語空辭樹流水無心自入池

報踏落花相伴出尋源花弓一時收
春花面〻同入胴蝶之一遊曉鶯舞〻
弥容講演之座

落花恨蕭風牡丹帰雨打時
雄園風翅凋摧襟下楊妃袖顧階艶
さそらこれそこそいそむらて
ゆそそ山ちれ

やまのうへのこんわうの後
こけむすまでのこりけるかなしさよんすか

躑躅

晩蕊尚開紅躑躅秋房初結白芙蓉
夜遊人欲尋来把食家翁折枝弄
おりひいつるとうきいの山乃いとつし
いとゝ孫いとしあるきひとすかを

歌冬

點着唯黄天有意歌交渓流暮春風
書窓巻捲相収拾詔渡無文未奉紙
がくはかくれすんりふかうすて
いまやちくらもやうやうさんるか
ちりの風やへ山もないむとへ織
ちりもれうるんるのうみり

藤

悵望遊見三月盡紫藤花落弓園

蟬羽霧露殘花[illegible]翠[illegible]燈中[illegible]

月有情春相[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏

更衣

肖[illegible]燈殘[illegible]宿煙[illegible]紗衣[illegible]帝[illegible]年香

早夏暁眠白

[illegible]衣線待家人着宿讓當[illegible]邑[illegible]酬

横[illegible]作業

[illegible]

晝夏

[illegible]頭竹葉[illegible]春[illegible]階底蔦[illegible]夏[illegible]

白

苔生石面[illegible]衣短荷出池[illegible]小蓋疎

知アの呉ヲロンカナリ

[illegible]

夏夜

風吹枯木晴天雨月照平沙夏夜雲

風生竹夜窓間月照松時壑上行

窓夜窓閑夢度疎源更新白月明初

[illegible]

[illegible]

端午

有時當戸危光景忘板園但所彷

[illegible]

納涼

青苔地上滑殘雨緣樹倚前逐晚涼　白居易

露簟清蕭瑟風襟爽蕭瑟秋涼　白居易

不是禪房無熱到但絶心靜即身涼　白

殷嬾婦團扇之扇代岸風兮長忘燕　遐昊對以不序匡衡

昭之招涼之珠南池月兮向沼

閑日思新篇惜為陰沈沈古集納涼詩　李

池冷水無二伏夏松高風至一秋　吳羽

すゝしさやまこもの中なる月かな　中務

ふくかぜにあきをかんじてすゝしさのこゝろのうちにあるものとおもへり　東京文庫

晚夏

行亭陰合徧宜夏水檻風涼不待秋　湖寺秋興　白

[illegible]

いつもうつらあるかぜの
秋さきたちぬるかな 中務
きみいるうしれとうちとけり 元真

花橘

廬橘子得山雨裏 棹桐葉戰水風涼 閑中秋興 白

枝撥金玲春雨後 花董紫麝朝風花 後中作 白

さつきまちかうちかのうをうなる 伊勢
まうれむものあくるすれ

ほとゝぎすなれうくいむうのうをとゝめて 貫之
うくいむうのうをやうしなる

蓮

風荷老葉蕭條綠水藻殘花寥寞紅 白

葉展影驚蜻蛉月花開香散八蜂風 白 也達詩集

煙開翠扇清風曉水泛紅衣白露秋

岸行枝徑應多宿渚畔葉動見鴛遊 白 [illegible]

緣何更覆吳山曲便是吾君應下花
注為[illegible]自佛為眼知法花中擅善根
[illegible]のにうふ志まめこころろて
みとうなつもをちまとあさむく

郭公

一聲山鳥曙雲外百點水螢秋草中

早秋出花詩

さりてやこゝはつ[illegible]まこうふ[illegible]こゝろ
うくなれこゝの[illegible]ほうこゝ

明秀日記

ゆさやこゝ山ちく[illegible]風[illegible]こゝろ
いまこゝしこゝの[illegible]こゝ
こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ
こゝこゝ[illegible]こゝ

螢

螢火乱飛秋已近展星早沒蟲初長
叢霞水晴螢知夜楊柳風高鴈送秋
明月光於屋上皓不

詩上

消雪積雪汴ハ方底頭

秋雪照恨賦紀納云

円丸稿古稿

山路寒言義鏡過畑海賊筥中仏宿流

くさ枕うさあれくやのうりもの

ひとふ三くせわ

う沈ともうくもいるもの

こたわあるれうこまり

蟬

遅と号春日五穀暖号温泉溢暖

号秋風山野鳴号宮樹紅

白美

千峯鳥路含梅雨五月蟬聲送麦秋

許暉

鳥下緑蕪巻菊黄静蟬鳴茗来漢文秋

円

今年亥例腸先断不是蟬悲宮亥悲

歳吉年来穂早憂言秋後遠為宮

紀

なつ山のこの乃

おくくわうせこのこ忘いくくゆう

人丸

ちれとうとうとしもうえんめしまとて
わとをみくもしのうりうまるまるは

扇

盛夏不銷雪終年畫風秋生
裏藏月八懷中

不期夜漏初分後惟覺秋風木到面

つかれはいくせすしまつさうふくるう
あふきのうちをるもやうさう

中巻

きまのうちあふきのうちをふきうて
ちるすみよそうれかさくきのうて
こみてにまちすうかされをせうく
うむうをくくもわうくとをりふ

中巻

秋

立秋

蕭蕭涼風至蟲聲驚誰教討畫一時秋
鶏漸散門秋色少雁常趨處晚聲激

あさゆめと先にいやふかそねやも　般若
こゑのみをしかるるかぜのわたる　紙屋
うらつまかぜのうつりこの笠ら
ひさのはるゆきとかりへそ

早秋

俱喜暑随二伏法不知秋送二毛来　白
槐花雨洞新秋地桐葉風原欲夜天　白
笑景剥残夜高重晩宣潛初覺失知　早秋紀

秋ふるとうくいうとあるねとこのねのろ　志賀寺上人
ひさをのうきはをとすしも

七夕

憶得去年長乞巧竹竿頭上彩絲多
二星遇逢未教別猶依々之恨不和
將明別驚鳥原風鳴々之聲
露應別洞珠宮淚殘棲鵲未成　小野美材

風流明月拜深恩及明神感不禁
玄夜興浪震雷混秋燭浸流月欲消
詞花激波注思遣言語行月欲為媒
おのれはなをさかりにこそあれ
きさらぎにいろをまして
ぬるとせしかとそへとたかるこの
はいろあさくこころもなさうか
やうとふかくこころにすまんと
おもふよのうきをすくるうきうら

秋興

林間煖酒燒紅葉石上題詩拂綠苔
松風響流水冷聲清籟發秋日
大庭四時心物苦孤伶秋天
物色自堪傷客意將愁字作秋心
中夜感思在秋天夜面時節物華

（仙遊寺の）
（安倉月秋の歌）
（平秋感懷の題）

第二傷心何事又寂竹風鳴葉月の秋

蜀茶湖上落花疎雙鍾新傳樹雪琴

（異代交遊高士妻）（世間人）

うらぶれいそしたのもとのあさけさ

おりふしもとうとうとれ

ちぎりいるをゆめまわしもうとれ

なぶりういもとさとうとさたい

（新春雪）

秋晩

相思夕上松堂三養思時拝満耳秋

（秋の日号）

登山為月猶恋新秋柳花泉滴信聲

おくやまの月ふりかすみ

はのうにこもるうぐいすのこえ

秋夜

炉夜長こゝ〻ノ無眠天不明歌こゑ殘燈

月樓數聞こゑ晴雨打高楼ノ

遥こゑ鐘渡初長夜歌こゑ星の欲暁天

鶯子橋中霜月夜秋来呉為一人長
蓼草岸辺源人心換終宵言無尽
蓮歳洲前嚴孤舟夢繞柳髮頭万里心
おもひをさめ山とうれしをのうちをの
ゆうゆうとなれきもとかも移ひて
ひとりとゝまるつゝみあもわるう
いつゝいあさのゝうゝよゝ

八月十五夜付月

秦甸之一千餘里凍〻氷満漢家之
三十六宮澄〻粉餉
織錦機中之詩相思字擣衣砧上
俄深怨別之辞
三更夜中新月色二千里外故人心
蓬山表裏千重雪落水高低万顆珠

十二廻中無勝於此夕之好千万景物
皆帰於玉家之玉
碧浪金波三五初秋風叶金色
白露荷葉凝霜早入蓮花過雨餘
岸白邂逅松上鶴清夢可憐漢中曲
瑤池便是蓬萊宮光如明月不如

月新雨秋色 考曰

天高秋月明声化物

金膏一滴秋風露如玉連二更於漢宮
楊貴妃帰唐帝思玉人玄宗情
三月春日花如雪三更秋月清如水
こゝろむそあされ春日花ゆきふる
月

誰人隔外久征戎何處遊而影別離
秋水浪来船去遠雲収夢月行遠

背白

不辭路中間去遠近　尋路間華表士不定詩
天山不雜何年雪　禁中牧丹　陽平
欲和豊嶺鶯聲吾甚羨　月夜似秋宮中吉
歸渡教訪戒客棹　山川之里月　保流
行行とうとうけれいとのやまおいてはるもれ　北度逐之出信仲九
とうとうのやまおいてはるもれ　保流
とうとうとうと

引十分号蕩甚歌秋雲之迴洛川
谷水流而海上寿巷卅餘
家地胤和歌論日精疑年顔者白菊歳
とうやうのうつれるを流水とも
いつくよりうつりてかはるなり

菊

霜蓬老鬢三分白露菊新花一半黄
不是花中偏愛菊此花開後更無花
風陰欲暮蜂猶恋松柏之後凋秋景早移
嘲芝蘭之先敗
紀伊国
鄭縣村閭皆潤屋陶家兒子不高堂
蘭苑自慙爲俗骨槿籬不信相長生
蘭苑荒籬摧萎後蓬茅洞門照霜中

むさくるしきものうへうてみちのくにあり
あり所はしらねどもいとしかやまこれまろ
ろうあるかからやはらみたるもの
つきさきとくもりたるうるうるあり

九月盡

泝以清函為固節當菊懸於書帷
今盃賞而追何社奠紀於風塵
須臾泝隨禅客乞秋故与太愚雖

文峯按鬼曰詞海艤舟紅葉裂
やふしたるもしわるももくれるいたるもも
まきの葉とかをまつかをまつて
ちりくゆくつきのこと
つくとちしのちとちとちをあらける

女郎花

花色如薫風俗降為女郎国名戯欲
翠偏老恐要衰菊着似霜

なごりなへしおはなの露をもらせる
わやかくいろのまとやそきもの
をみるをりにたにうゑいるくさまて
いとしりのあさ風しるし手

萩

曉露廉鳥花梢殺而般舉折一時情

わさの野ふくさきのうらをかをれおのくるりとをこ
移りやわらはもの人
うりろりむしとふかまあるさきなる
おきろくらはをまるはのうか

けさの野ふくさきのうらをかをれ
おきつのめ泳みうらうてをれ

蘭

前頌更有蘭條物乱菊叢蘭三五叢
枝葉豈無色手浮也掩而包霞叢蘭
豈不芳乎秋風吹而出之歟
凝如漢女顏施粉高似疑人眼注珠

幽驚楚客秋絃韻夢燕姫腰花薫

直勢ニ

[illegible]

素性法師

[illegible]

檀

松樹千年終是朽檀花一日自為榮

来而不留燕雖有拂晨之露去而

不返檀縱無投暮之花

岳中雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

曾非種處思元元元

歸園何在落葉空深

秋逢不拂携藤杖閑踏梧桐黄葉行

城柳宮槐濕霧籠秋悲不到貴人心

檐樹新中一声雨空驚鶴鳴月

上牧岸之紅淺

樵蘇徒及秋空朱買臣之衣徒逸優

遊履鳴葛雅仙之藥

隨風落葉合蘭蕊濯石光泉寂雅琴

遂夜光皇苑月勤琴和鳳林風

やまのあさぎりたちもとまらぬ

ちりのこるもみぢ

ちりのこるもみぢ

ちりのこるもみぢ

鴈 付帰鴈

万里人南去三春鴈北来知何歳
月落乙汝同帰

天寶集詩 白

登清輝樓贈劉南錫

尋陽江色潮添満数蟲秋聲鴈一来

惟南返中作 杜荀鶴

四五東山粧雨色二行西塞雪辞
屠弓難避未抱数於上弦之月懸

奔箭易逢於成濫於下流之水急

秋霽山訪雨遊青

鴈影碧流書青紙隼聲霜林改深機

碧色粧筆科立種青苔色減数行書

雲衣鳥跡羅中鶴風情蘭湘浪上舟

わうらをかくりうとそうこと拙ろう
ちうたまつさをいろをかさねてまつ

帰鴈

山腰帰鹿斜韋帝水面新田蒔巾　紅葉
けうそみそりのそこすてゆくうの　伊勢
そかるさきそかすうやすくへれ

虫

切々晴空下嘆深草裏秋夫思妙　五言　白

心雨夜鳴人耳

霜草鈴枯虫思苦風枝来宿鳥栖難　白

床畳短脚苔殺同壁猷空心亂孔穿　菊合夜催　吉蔭

山窟雨時鳴自晴野草風處減秋色

漿邊怨逢風同晴壁底吟出月色寒　秋夜　伊勢

いまこむとそもれしのあんくむあさの夜
とあしくれねづまりすしのこと　素性
きらくすいくるあきを秋乃よの
みるさうえいもまるる

虫

蓑苔路滑僧敲寺紅葉聲乾庭林

晴遣食萍身色憂更陪かなを白風来

そこらせめそこさ葉のやまにすむ

かまとのさるまそくやあさらん

ゆふつくよそこられしるくしうさ

しらうらやちあさらくあ

露

可惜九月初三夜蕭蕭白風衝松葉雅琴清

蕭蕭蘭蕙寒色白風衝松葉雅琴清

さらしうれあさるまつあはくそ

さまやしみうまそ

露

竹雲暁紀衛嶺月顕風清遠乙紀春

能登名雲堤人牧牝牡出馬鞍

[illegible]

擣衣

八月九月正長夜千聲万聲無眠時 白

砧杵聲高樓月下擣寒衣 馬嵬

擣處殷勤閨月冷裁時秋寺塞雲遲 左傳

裁出遥遥長短製過悲宮不昔腰圍 白

風塵香花萎袖拳月前行怨夜啼 坂中公

年年別思驚秋夜鳴鶴聞月蟬

冬

初冬

十月江南天氣好可憐景物似春花 白

誰家思婦秋擣帛
四時更盡二分減万物蹉跎過半間
庭上寒收青竹簟
床中開出白綿衣
[illegible]

冬夜

一盞寒燈雪外夜
数盃温酒雪中春

年光向晦[illegible]
[illegible]

歳暮

寒流帯月清如霜
風雪昏昏向人急
[illegible]

煙火

黄醋緑醋迎冬設帳紅燈迎夜開
看無野馬飛空罵風雲設火迎
此火應鑽花樹取樹來終夜有春情
多時紙破雪花迎白那離歎炭色
うつゝのうちかゝうちかゝうちかゝ
もくもくまんまんとしるるなり

霜

三秋岸雪花初白一夜林霜葉色紅
万物秋霜結懷之冬日寒時冬日寂閑寺
園寒夢驚鳥或流孤枕如之柏上山風感動
光侵皓皓之鑽過
君子夜深音不絶光蔚年曉鑽相磨

殺之已沈死屍ノ鶴ハ多ク初殺ノ昔ノ殺人

晨積毛海鷺羹色夜雲毛表鶴吞群

更をきしを沐さんてこそけいとしし

かくしもあへまきやとこそ

雪

曉入梁苑雪海拜山更登庾公

之樓月明多情

銀河決決三千里極目花開一万株

雪似梅毛毛散乱人投鶴鬣豆飛個

或疑風不迎如振鶴翼毛毛高

紀

花為蕊凝泉孤之腋

翅似得形栖淹鶴心應意再捍舟人

村上帝製

立於庭上頭巾鶴陸在地如手毛

擬女園中秋扇　八月　仁孝

こやこそそそ

みやこのやまかぜふきてもみぢはの
みねのあさぎりはれぬれば
ちりしきもみぢのにしきかな　文幻
ゆきはきえかすみたちぬれば
いつしかとしもとりてはあらじ

氷　付春氷

氷封水面同無雁雪點林頭見有花　菊

霜妨鶴唳寒無水結狐聚時
おけるそらはれぬれば月のひかりもものさむしとれば
かぎりなくしろしいとまりいろ

春氷

氷鏡見水宮於池雪霧望山畫入樓　白

氷澄遠近霜雪面梁上見石牧　文幻

胡塞誰能令使虜陰還恐失臣忠

やまとまれなるさかりにけるをに
ちるかりのこゑのやとりとん

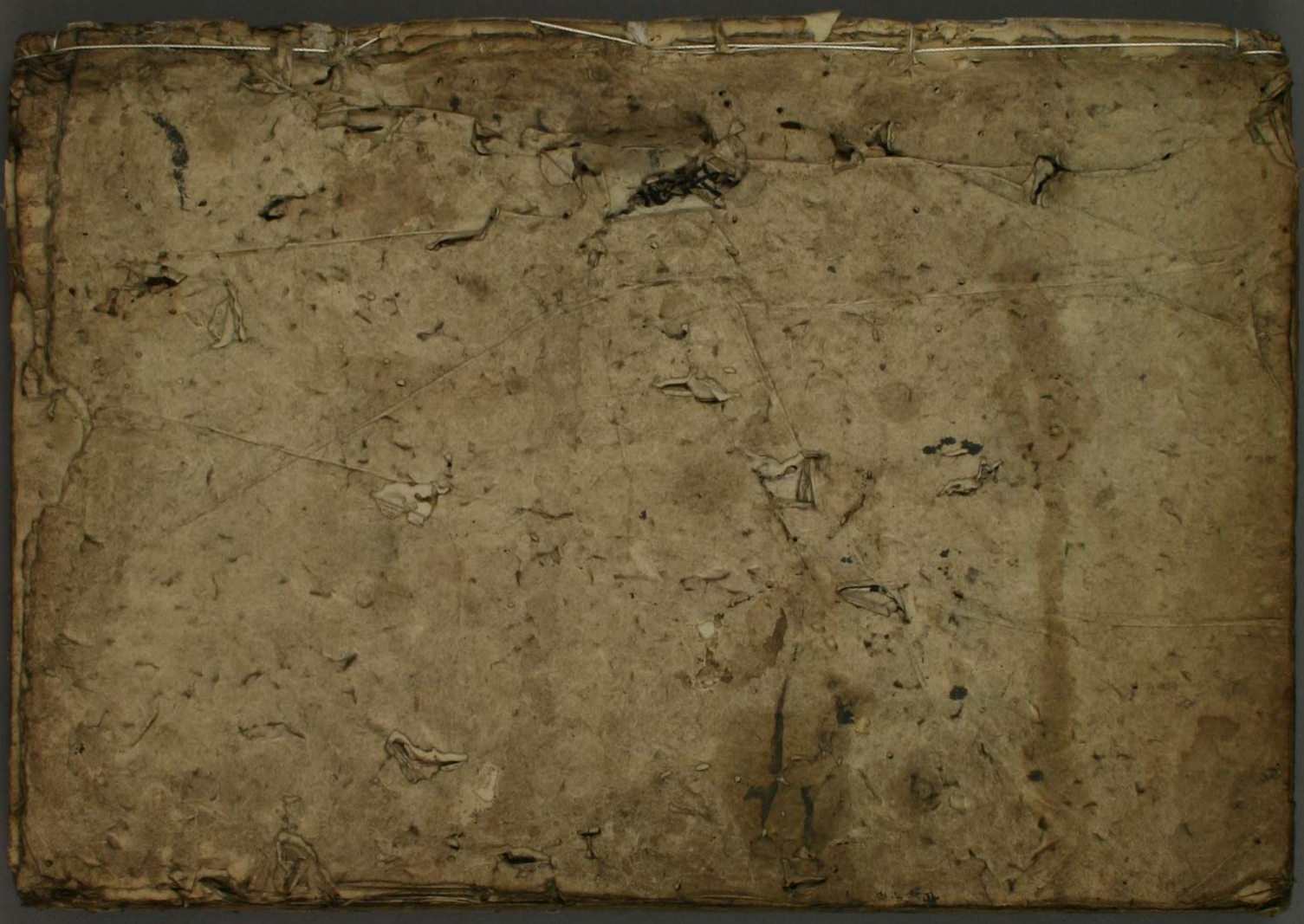
霰

廬峯雪来霰聲々脆韻殊投顆寒
うやまはいかあらしかなれ
夜ちるうつまふこゑ

佛名

香火一燈燈一華遠臣公庭乳佛花

香閣深春風
火花開合掌尼
あたまのうもくしゃうつ
たもれうすはらやもあらん
かるさいはるかけらやもあらん
ちるむしあきうまいそくら年
やれらふつこいうさしら
ちるるまふこうふさくまを

和漢朗詠集上一

小崎赤市